

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大田区立雪谷保育園
所在地	大田区東雪谷3-6-1

1 活動のテーマ

心と身体を育む運動(体育指導)

<テーマの設定理由>

当園では、年少クラスから年長クラスを対象に、外部講師による体育指導を週一回行っている。意欲的に参加しているが、自発的な行動は少なく、消極的な子も多いのが現状になっている。10月の運動会では、体育指導で練習した運動を発表する事が恒例になっている。こども達が楽しみながら体育指導にも、運動会にも主体的に参加する事が出来たら楽しいだろうと考えていた。ある日、年中クラスのこどもが「忍者」に興味を持っている子が多い事を、こども達の会話の中で知ることができた。「忍者っているんな術が使えてかっこいい」「修行すれば術が使えるようになる」など、こども達の忍者への興味が高まってきたので、絵本を借りたり、遊びの中に取り入れるなどして、クラス全体で忍者への興味を高めた。修行を体育指導に重ねてイメージを広げる事で、体育指導への意欲や、主体的な行動につなげたいと思いテーマを選定した。

2 活動スケジュール

4月～3月…忍者の絵本や紙芝居を読み、保育の中に取り入れる

【体育指導 年間スケジュール】

4月…徒手 5月…マット 6月…跳び箱 7月…プール

9月・10月…マット・跳び箱・鉄棒

10月18日…運動会

11月…鉄棒 12月…長縄 1月…短縄 2月…ボール 3月…まとめ

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

「忍者ってどういう人?」「忍者ってなにができるの?」と問いかけ、忍者のかっこいい所をみんなで考える。「高く跳べるようになりたい」「速く走れるようになりたい」「身を隠せるようになりたい」というこどもの期待を体育指導への参加意欲に繋げた。毎週火曜日にホールに集まり、外部講師による体育指導(修行)を受ける。(マット・跳び箱・鉄棒)

4 探究活動の実践

<活動の内容>

こども達の「忍者」への憧れを一緒に共有し、何を修行したいか、どんな術が使えるようになりたいかを引き出した。

忍者の術を体育指導の活動につなげ練習前に意欲を高めた。

跳び箱⇒物を跳び越え敵から逃げる修行 走り込み前転⇒敵から身を隠す修行

鉄棒(前回り)⇒敵をくらませる修行

☆運動会で修行で習得した忍者の術を披露した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

※活動の様子が分かる写真を2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
忍者への憧れから、体育指導での跳び箱・マット運動・鉄棒の練習に意欲的に取り組むようになってきた。体育指導で教わり、できる事が増えたことで、忍術が増えたイメージが広がり、普段の遊びの中に取り入れる様子も見られた。園庭遊びでも、短縄を地面に置き、ロープを渡る術を楽しんだり、くぐるものを見つけては身体を小さくしてはすばやくくぐることを競い合うこともあった。運動会への期待も高まり、様々な場面で忍者を取り入れたいとこどもからのアピールもあった。こども達の意見を尊重し、運動会のお遊戯、バルーンの演技も忍者をコンセプトに一貫性を持ったプログラムにした。



5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

体育指導を修行と言い換えことで、こども達のやる気を引き出すきっかけが増え、やらされている感が顕著に減った印象があった。ファンタジーの世界観に入り込みやすい年齢であることも、心と身体の発達を育むことにつなげやすかった。運動会のお遊戯でも忍者をテーマにした曲を選定し、バルーンの演技でも忍者の振り付けや、技を忍者の術にみためたりと一貫性をもって運動会に参加できるようにした。忍者になることで、こども達の世界観が広がり、運動会への参加のハードルが低く、緊張がほぐれた様子が見えたり、笑顔で期待をもって参加する姿が増えた。「本物の忍者になりたい」という思いと、体育指導での運動機能の向上が相乗効果となり、心と体が育まれる保育ができたように思う。